dokuduku（ドクヅク）　dシリーズ３

TAMAKI

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ｄｏｋｕｄｕｋｕ　ｄシリーズ３

【Ｎコード】
Ｎ１９１６Ｑ

【作者名】
ＴＡＭＡＫＩ

【あらすじ】
こいつ、また講釈垂れんのかよ？　ホント、いつも偉そうにしやがってさ！　ああ、嫌なヤツったらありゃしない！

「ふん。キミもしぶといもんだ」

相も変わらず偉そうにして。

「何がしぶといって？」

「だってなあ」

ここでヤツはこちらの手元に目をやり

「まだやめてないし」

「ああ、煙草か。こればっかりはね」

箱より抜き出した、今や高価な一本の煙草。だが、吸った経験もないヤツには言われたくない。

「やめる気がないのか？　はたまた単に意志薄弱なだけなのか？　ま、こっちには関係ないが」

そして相手は、カップにコーヒーを注ぎながら

「それで、さっきの話の続きなんだがね。部屋で二人きりでいて、その相手が自分に殺意を抱いていて襲ってきたとしよう」

それにしても好きだよねえ、講釈垂れるのが。

「はいはい」

「だがな、そんな素振りなんて気づくに決まっている。人間、そう易々とは殺されないし、抵抗するか逃げようとするか試みるものなんだ」

「そんなもんなのか」

これに数度頷くヤツ。

「だから、いとも容易く殺される巷の推理小説など、これっぽちも科学的じゃない」

あらら、自信満々だ。

「なるほどね」

そう答えた俺はその煙草を机の上放り、次の瞬間、予定通り相手に飛びかかった。

勢いで床に転がった二人だが、馬乗りになった俺は相手の喉に黒の手袋で覆われた二本の親指を食い込ませている。

「うぐっ」

「理屈ばかりを並べているが、大事な点が欠落しているんだよね！」

さらに力を注ぎ込む。

「ぐうっ」

「相手の心理状況すら読めず、いや無視して、どこが科学的……」

ここで、その首が大きく右に揺れた。

暫し確認した俺は、その面に吐いてやった。

「まずな、手袋をしたまま煙草を吸うのを不審に思わなくちゃな。第一、火なんて点けてないじゃん！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1916q/

---

dokuduku（ドクヅク）　dシリーズ３

2011年1月18日22時50分発行